

事務事業評価シート

(平成 23 年度実施事業)

事務事業名	ごみ焼却運転管理事業			事業コード	0297
所属コード	058000	課等名	クリーンセンター	係名	業務係
課長名	遠藤 朝志	担当者名	伊藤 祐悦	内線番号	5217
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	環境との共生	コード	6
	施策	生活環境の保全	コード	1
	基本事業	環境衛生の確保	コード	1
予算費目名	一般会計 4 款 2 項 3 目 ごみ焼却事業 (005-01)			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰越 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	平成 10 年度	
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (第 6 条の 2) クレーン運転士：労働安全衛生法第 61 条第 1 項 労働安全衛生法施行令第 20 条第 6 号 クレーン等安全衛生規則第 22 条 クレーン運転特別教育：労働安全衛生法第 59 条第 3 号 労働安全衛生法規則第 36 条 クレーン等安全規則第 21 条 ダイオキシン類暴露防止特別教育：労働安全衛生法規則第 36 条 34 から 35 号 労働安全衛生規則第 39 条			

(2) 事務事業の概要

盛岡市（都南地区，玉山地区を除く。）から排出された燃やせるごみを焼却処理する施設の運転管理を行う。

ごみ焼却業務関連の技能・資格と知識を習得させる。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

昭和 29 年制定された「清掃法」により，ごみ処理は自治体の責務として定められ，昭和 45 年「廃棄物及び清掃に関する法律」が制定され現在に至っている。

クリーンセンターの運転開始に伴い，焼却機械・設備等の運転に必要な法令上の技能及び資格取得が必要となったことや，安全作業・運転のために技術並び知識が必要となった。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

運転管理上の変化はない。

平成 22 年 4 月から運転管理業務の一部委託が開始され，3 年目となる。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象（誰が、何が対象か）

盛岡市（都南地区、玉山区を除く。）から排出された燃やせるごみ。
焼却業務従事職員

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 見込み
A 燃やせるごみの搬入量	t	80,848	77,180	74,865	77,000	72,380
B 焼却業務従事職員	人	34	28	28	28	28
C						

(3) 23年度に実施した主な活動・手順

ごみ焼却一部運転管理業務委託の監督業務及び電気主任技術者・ボイラータービン主任技術者の後継者育成。

- クレーン運転士実技学科講習 1名
- ダイオキシン類暴露防止特別教育 5名
- 特定化学物質等作業主任者技能講習 2名
- 酸素欠乏・硫化水素作業主任者技能講習 2名
- 有機溶剤作業主任者技能講習 2名

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A 燃やせるごみの焼却量	t	79,339	74,315	69,856	75,600	67,760
B 薬品関係費	千円	74,536	70,485	70,485	69,182	66,415
C						

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

環境への負荷を軽減しながら、排出された燃やせるごみの安全かつ適正な焼却（中間処理）を図る。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績	26年度目標値
A 灰 (主灰+飛灰) 搬出量	<input type="checkbox"/> 上げる <input checked="" type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	t	10,551	9,897	9,303	9,866	8,745
B 発電電力量	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	kwh	12,163,190	11,639,090	12,500,000	11,745,560	12,500,000
C 公害防止協定遵守	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input checked="" type="checkbox"/> 維持	日	365	364	365	365	365

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	0	0	0	0
	⑤その他()	千円	141,859	137,512	140,893	100,000
	A 小計 ①～⑤	千円	141,859	137,512	140,893	100,000
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	101,046	101,046	101,046	101,046
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	404,184	404,184	404,184	404,184
計	トータルコスト A+B	千円	546,043	541,696	545,077	504,184
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

結びついている。

理由：燃やせるごみを適正に処理することによって環境衛生が守られる。

② 市の関与の妥当性

妥当である。

理由：法定事務である。

③ 対象の妥当性

現状で妥当である。

理由：都南地区は盛岡・紫波地区環境施設組合、玉山区は岩手・玉山清掃事業所にて処理を行っている。

現状において対象範囲を拡大する必要はない。

④ 廃止・休止の影響

影響がある。

内容：市民の排出するごみを処理しているため、廃止・休止により市民生活に多大な影響を及ぼす。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

向上余地がある。

内容：ごみ減量の推進，焼却効率の推進，発電の定格出力運転日数の向上，公害防止協定遵守。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

公平・公正である。

理由：搬入される可燃ごみについて，盛岡地域から排出されるものと限定しているが，その他搬入機会については公平・公正である。

(4) 効率性評価

削減余地がある。

理由：ごみ焼却運転管理業務の民間委託等により事業費が削減できる可能性がある。また，現在委託している定期点検整備業務の中で職員の技術力の向上を図ることにより委託している業務の一部を直営で行うことで削減の余地がある。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 改革改善の方向性

代替案その1 ごみ処理の広域化を含め，近隣施設との連携を図り，ごみ処理の効率化を推進。

代替案その2 ゴミ袋の有料化等（市指定ゴミ袋）及び家庭系直接搬入ごみの有料化の検討。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

近隣施設との連携を図るためには，市としての方針を定めて取り組む必要がある。

ゴミ袋の有料化等（市指定ゴミ袋）及び家庭系直接搬入ごみの有料化については，他都市の状況等，判断材料となる情報を全体で共有し検討する必要がある。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

施設の安全運転とともに公害防止協定の遵守を重点に業務を遂行しているが、安定燃焼のため、引き続き分別収集の徹底及びゴミの量や質の変化に注視する必要がある。

また、ごみ焼却業務の広域化推進の動向については、地域住民への積極的な情報提供が必要である。